

幾春別川総合開発事業における 環境保全の取組

令和5年9月ver.

SHINKATSURAZAWA DAM



新桂沢ダム

当事業では周辺環境の保全措置とダム事業推進の両立を目指した様々な取組を行っています。

地形・地質 (化石保全)



専門家の協力によるアンモナイト等の化石含有状況の確認をしています。展示や学術研究の資料として管理等を実施しています。

両生類の移植放流



エソサンショウウオの個体と卵のうを近隣の水枯れしないたまり池に移植し、移植後の調査では幼生の生息と成体まで成長した個体も確認されました。

昆虫類の幼虫移植



ムカシトンボの幼虫を採集し、同水系または近隣の改変区域上流側の支沢に移植。翌年の個体数調査で、移植先での個体生息の継続が確認されました。

底生生物の個体移植



ニホンザリガニの個体を採捕（カットマーキング）し、同水系または近隣の改変区域上流側のしみ出し沢に移植。移植後の調査では、放流個体が再確認されました。

植物類の個体移植



フクジュソウやシラネアオイ、オクエソサイシンなど約25種の保全対象種を移植しています。

ダム湖岸緑化



湖岸の裸地にて、試験植樹を実施し植樹種類ごとの定着・育成状況についてモニタリングを実施しています。

外来種の駆除



外来植物（オオハンゴンソウ、ハリエンジュ、イタチハギ）が確認された箇所において、職員による駆除作業を行っています。

景観



自然景観とのダムの構造的な特徴を活かした堤体景観を形成しています。

Pick Up

保全取組の一例 - 希少猛禽類の保全 -



01 現地調査の実施と対策の検討

付替林道工事前に、令和4年度の現地調査によって、林道工事箇所の近くに希少猛禽類であるクマタカの営巣と抱卵を確認しました。そのため、クマタカの繁殖や^{はんしよく}育雛に^{いすう}影響が生じないよう配慮し、事業推進のための対策を検討しました。

※育雛とは鳥類の親が子供である雛を一定期間育てること

02 クマタカの保全と作業の両立に向けた対策の実施

両立に向けた対策のながれ



※馴化とは生物が新しい環境の変化に適応すること

03 クマタカの生態に配慮した結果

作業工程や作業音などを考慮することで、次第に幼鳥のリラックス行動が見られたほか、順調な繁殖が確認されました。施工に関しても、様々な施工条件を厳守しながら、工事を予定通り進めることができました。今後も本取組を参考として、工事箇所における希少猛禽類の繁殖状況確認を行い、ダム事業の早期の完成を目指すところです。



幼鳥の様子